

## 日野子育てパートナーの会 だれでもがゆっくりできる 「みんなのはらっぱ」 フリースペース「みんなのはらっぱ」

「毎週、『みんなのはらっぱ』に来ています。子育てのベテランのパートナーさんがいて、安心感が大きいです」

「『みんなのはらっぱ』をきっかけに、お母さん同士のつながりができ、地域でも連絡を取り合うことができるようになって、うれしかった」

「子どもが生まれて、地域とのかかわりを持つことができるきっかけとなったのが、この広場でした」

「みんなのはらっぱ」に来ているお母さんたちの声です。



平成14年度から、東京都教育委員会では、地域で子育てを支援するしくみをつくるための事業として、「子育てパートナー事業」を開始しました。日野市もそのモデル事業実施市として、地域における子育てに不安や悩みなどを抱えるお母さんやお父さんの相談相手となる「子育てパートナー」を養成し、その子育てパートナーが活動できる機会を提供する事業を始めました。この「みんなのはらっぱ」は、日野市教育委員会生涯学習課主催の「子育てパートナー養成研修」を修了し、「子育てパートナー」として登録されたメンバーが自主グループ「日野子育てパートナーの会」を作って、開設した子育て中の親のための広場です。

平成15年5月にオープンした都営住宅の1階にある日野市南平駅西交流センターを会場に、平成15年5月20日からスタート。対象は、子ども(0歳児～)とその保護者で、毎週火曜日、午前10時30分から12時まで実施しています(10月から月1回午後も実施)。

広場活動には、子育てパートナーの14名が参加し、毎回4名がローテーションで担当しています。「みんなのはらっぱ」には、メンバーの創意工夫を凝らした布の装飾やダンボールを使ったおもちゃや本箱などがあり、手作りのあた



たかさがあふれています。

「みんなのはらっぱ」開設以来、毎回、おもに、0～4歳児とその保護者、70名程度の参加があると云います。

日野子育てパートナーの会代表 森ようこさんは、「毎週火曜日のみの実施ですが、『みんなのはらっぱ』で出会ったお母さん同士が日ごとに仲良くなっていくのを見ると、本当にうれしいです」と。

また、今後の抱負として、「子育て中のお母さんたちが、ひとりぼっちじゃない!と思えるような人のぬくもりのある居場所にしていきたい」と熱く語ってくれました。

## 講師は市民ボランティア～昭島市教育委員会の 「土曜地域ふれあい事業」

昭島市教育委員会社会教育課では学校週5日制への対応として、小学5・6年生と中学生を対象にした「土曜地域ふれあい事業」を今年度から始めました。行政と市民ボランティアの協働事業ということで、講師・スタッフは年度始めに公募して集まってくれた市民ボランティアです。事業の内容は、「料理教室」「囲碁・将棋教室」で6月から11月(それぞれ9回)、11月から3月(それぞれ8回)の2期にわたって、第1第3第5土曜日に市内の3つ小学校で実施されています。前期の事業には2教室で約80人の小中学生が参加しました。



参加者募集

のチラシは昭島市の全小中学校を通じて配られました。

両教室併せて約70名の市民ボランティアが教室の運営から子どもへの指導や援助までを担っています。料理教室では、子どもたちの声を聞きながらレシピをつくることから始まります。中にはレシピを家に持ち帰って家庭でも料理をつくったりする子どももいるそうです。食器は家庭科室で使用しているものを借ります。囲碁教室の参加者はほとんどが初心者です。初心者向けに入門編からはじめて、参加者同士のトーナメントも行いました。

市民ボランティアの丁寧な運営と指導によってほとんどの子どもたちが毎回欠かさずに参加し、日頃接する機会のない地域の人々とのふれあいの場になっているそうです。

社会教育課では、今後は小学校低学年も含めて参加できるように対象を広げながら、児童センター等でも上達した子どもをフォローできるような取組も考えていきたいと話しています。